

## 総括研究報告書 資料

### (全国調査・調査票)

- 1 通所介護事業所 事業所調査
- 2 認知症介護対応型共同生活事業所 事業所調査
- 3 通所介護事業所 職員調査 \*
- 4 利用者調査(共通)

\*:認知症介護対応型共同生活事業所・職員調査は、通所介護用職員調査のうち、問1の「認知症でない…」設問が省略されているだけで、あとは共通である。





(7) 1日のサービス提供時間 (最も算定が多い時間1つに○)	1. 2～3時間未満 3. 4～6時間未満 5. 8時間以上 2. 3～4時間未満 4. 6～8時間未満
(8) サービス提供時間帯 (具体的に数字を記入)	開始 午前 時 分 ～ 終了 午後 時 分 時間延長 <u>あり・なし</u> ↓ 前延長 : から 後延長 : まで
(9) 現在の加算状況 (加算をしているものに○)	1. 送迎 2. 入浴 3. 特別入浴 4. 機能訓練
(10) 機能訓練指導員について (現在の状況についてご記入ください)	①専任の機能訓練指導員 1. あり 2. なし ②機能訓練指導員の有している資格 1. 理学療法士 2. 作業療法士 3. 言語療法士 4. 看護職員 5. その他 ( ) ③専従の機能訓練指導員の配置日数 週に 日 ④1日の平均的な配置時間 1日平均 時間 ⑤個別の機能訓練計画を作成している利用者数 名

### ③ 認知症ケアの現状とご意見

(1) 認知症の方への専用のサービス提供体制 (あてはまるものに○)	1.認知症(痴呆)専用型である 2.一般型であるが、事業所全体を認知症の方の専用としている 3.一般型であるが、利用者の大部分が認知症の方である 4.一般型であるが、認知症の方だけのグループをつくっている 5.一般型であるが、認知症の方の専用の曜日を設けている 6.認知症でない方と混合でサービス提供している 7.認知症の方は利用者にはいない 8.その他 ( )
(2) 18年度4月以降は、認知症高齢者向けサービスはどのようなサービス形態となる予定ですか。 (あてはまるものに○)	1.認知症対応型通所介護事業所となる 2.小規模多機能型居宅介護事業所となる 3.一般の通所介護事業所であるが、認知症の方の専用とする 4.一般の通所介護事業所であるが、認知症の方だけのグループを作る 5.一般の通所介護事業所であるが、認知症の方の専用曜日を設ける 6.一般の通所介護事業所であるが、認知症の方とそうでない方の混合でサービス提供する 7.認知症の方は利用者の中にはいない予定である 8.その他 ( )

<p>(1)軽度、中重度を問わず、認知症の周辺症状を緩和したり、進行を緩やかにしたり、生活の自立を促進したりすることに効果があると感じられるサービス、工夫等があれば自由にお書きください。</p>	
<p>(2)とくに軽度の認知症の方に対して、周辺症状を緩和したり、認知症の進行を緩やかにしたり、生活の自立を促進したりすることに効果があると感じられるサービス、工夫等があれば自由にお書きください。</p> <p>また、今後の軽度認知症高齢者向けのサービス内容について、ご意見、ご提言がありましたら、自由にご記入ください。</p>	

#### ④ 調査日のサービス提供について

- ここでは、ある調査日（1日）における状況をご回答ください。  
 ○調査日は、2月20日～3月3日のうちの月～金曜日のいずれか1日をお選びください。可能な限り、特別な行事等のない日をお選びください。  
 ○認知症の方の利用者数が曜日等によって異なる場合には、なるべく認知症の方が多い1日を選んでいただけますと幸いです。

調査日：            月            日（            ）

(1) 当日の利用人数	人
(2) 当日の利用者の要介護度と認知症の方の人数	①要介護度別人数 要支援      (      ) 人      要介護1    (      ) 人 要介護2    (      ) 人      要介護3    (      ) 人 要介護4    (      ) 人      要介護5    (      ) 人
	②要支援、要介護1の方のうち、 認知症でない方                      (      ) 人 認知症自立度Ⅰに相当する方        (      ) 人 認知症自立度Ⅱに相当する方        (      ) 人 認知症自立度Ⅲ以上の方            (      ) 人
	③要介護2以上の方のうち 認知症でない方                      (      ) 人 認知症自立度Ⅰに相当する方        (      ) 人 認知症自立度Ⅱに相当する方        (      ) 人 認知症自立度Ⅲ以上の方            (      ) 人

#### 利用者調査について（お願いと調査の方針）

- 現在利用されている方のうち、軽度認知症（ここでは、要支援・要介護1であり、認知症自立度がⅠまたはⅡの方とします）に該当する方と中等度以上の認知症（ここでは、要介護2・3であり、認知症自立度がⅢ以上の方とします）に該当する方について、いくつかの項目を比較して、軽度認知症の方の特徴を明らかにすることが目的です。  
 ○この調査は、各事業者の保有する個人情報台帳のデータを転用するのではなく、調査当日における様子を観察した結果を中心にご記入いただくものです。  
 ○この調査は、無記名であり個人を特定する情報を収集しません。  
 ○利用者調査票は4枚（薄黄色の用紙：両面1枚）同封してありますので、軽度認知症に該当する方3名以内と中等度以上の認知症に該当する方1名を任意にお選びいただき、利用者お一人について1枚の調査票を使用してご記入ください。  
 ○1日で全員分を書ききれない場合には、数日間をかけて記入いただいてもかまいません。  
 ○この調査の目的は社会福祉・公衆衛生の向上を目的とした学術研究であり、得られたデータはそれ以外の目的には使用しません。  
 ○調査結果は統計的に処理した分析結果を公表しますので、個々の利用者や個々の事業所ごとの結果について公表することはありません。

※以上をご理解いただき、ご協力いただけますと幸いです。



①貴事業所の概要についてお聞きします。

<p>(1) 事業所の法人形態 (1つに○)</p>	<p>1. 社会福祉法人(社会福祉協議会以外) 2. 社会福祉協議会          3. 医療法人 4. 民法法人→(a. 社団 b. 財団)          5. 営利法人 6. 特定非営利活動法人          7. 農協・生協          8. 地方公共団体          →(a. 都道府県 b. 市区町村 c. 広域連合、一部事務組合等)          9. その他( )</p>
<p>(2) 他の介護保険事業の実施状況 (併設しているものに○)</p>	<p>1. 介護老人福祉施設 2. 介護老人保健施設 3. 介護療養型医療施設          4. その他病院・診療所 5. 訪問介護 6. 訪問入浴介護          7. 訪問看護 8. 訪問リハビリ 9. 通所介護          10. 通所リハビリ 11. 短期入所生活介護 12. 短期入所療養介護          13. 特定施設入所者生活介護 14. 福祉用具貸与          15. 居宅療養管理指導 16. 居宅介護支援 17. 併設なし</p>
<p>(3) 建物の特徴 (最も近いもの1つに○)</p>	<p>1. もともと民家、一般住宅であった建物を改造したもの          2. 既存の施設、病院、寮などを改造したもの          3. グループホームとして新たに建築したもの(木造、民家型)          4. グループホームとして新たに建築したもの(鉄筋、施設型)          5. その他( )</p>
<p>(4) 立地 (最も近いもの1つに○)</p>	<p>1. 住宅地や商店街の中にある          2. 住宅地や商店街からは、やや離れた場所にある(歩いて行ける程度)          3. 住宅地や商店街からは、離れた場所にある(車なら行ける程度)</p>
<p>(5) 利用者の居住エリア (最も近いもの1つに○)</p>	<p>1. 概ね市区町村の一定の地域(集落、小学校区、中学校区等)          2. 市区町村全域にまたがる 3. 市区町村を越えて利用</p>
<p>(6) ユニット(共同生活住宅)数と定員</p>	<p>_____ ユニット          定員数① _____ 名 ② _____ 名 ③ _____ 名</p>



## ② 軽度認知症ケアに対する現状と意見

<p>(1)軽度、中重度を問わず、認知症の周辺症状を緩和したり、進行を緩やかにしたり、生活の自立を促進したりすることに効果があると感じられるサービス、工夫等があれば自由にお書きください。</p>	
<p>(2)とくに軽度の認知症の方に対して、周辺症状を緩和したり、認知症の進行を緩やかにしたり、生活の自立を促進したりすることに効果があると感じられるサービス、工夫等があれば自由にお書きください。</p> <p>また、今後の軽度認知症高齢者向けのサービス内容について、ご意見、ご提言がありましたら、自由にご記入ください。</p>	

### ③ 調査日のサービス提供について

- ここでは、ある調査日（1日）における状況をご回答ください。  
 ○調査日は、2月20日～3月3日のうちの月～金曜日のいずれか1日をお選びください。

調査日：            月            日（            ）

(1) 当日の入居者数	人
(2) 当日の入居者の要介護度と認知症自立度による人数	①要介護度別人数 要介護1 (        ) 人 要介護2 (        ) 人            要介護3 (        ) 人 要介護4 (        ) 人            要介護5 (        ) 人
	②要介護1の方のうち、 認知症自立度Ⅰに相当する方 (                    ) 人 認知症自立度Ⅱに相当する方 (                    ) 人 認知症自立度Ⅲ以上の方 (                    ) 人
	③要介護2以上の方のうち 認知症自立度Ⅰに相当する方 (                    ) 人 認知症自立度Ⅱに相当する方 (                    ) 人 認知症自立度Ⅲ以上の方 (                    ) 人

#### 利用者調査について（お願いと調査の方針）

- 上記の調査日に入居されている方のうち、軽度認知症（ここでは、要支援・要介護1であり、認知症自立度がⅠまたはⅡの方とします）に該当する方と中等度以上の認知症（ここでは、要介護2・3であり、認知症自立度がⅢ以上の方とします）に該当する方について、いくつかの項目を比較して、軽度認知症の方の特徴を明らかにすることが目的です。
- この調査は、各事業者の保有する個人情報台帳のデータを転用するのではなく、調査当日前後における様子を観察した結果を中心にご記入いただくものです。
- この調査は、無記名であり個人を特定する情報を収集しません。
- 利用者調査票は4枚（薄黄色の用紙：両面1枚）同封してありますので、軽度認知症に該当する方3名以内と中等度以上の認知症に該当する方1名を任意にお選びいただき、利用者お一人について1枚の調査票を使用してご記入ください。
- 1日で全員分を書ききれない場合には、数日間をかけて記入いただいてもかまいません。
- この調査の目的は社会福祉・公衆衛生の向上を目的とした学術研究であり、得られたデータはそれ以外の目的には使用しません。
- 調査結果は統計的に処理した分析結果を公表しますので、個々の利用者や個々の事業所ごとの結果について公表することはありません。

※以上をご理解いただき、ご協力いただけますと幸いです。

## 介護職員の認知症介護に関する意識と行動の調査

締め切りは3月5日です。よろしくお願いします。

この調査票は、介護職員の方がご自身でご記入下さい。

記入年月日:平成 18 年 月 日

●あなた自身のことについてお聞きします。

1. あなたの性別を教えてください。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 男性                      2. 女性

2. あなたの年齢を教えてください。

満 (            ) 歳

3. あなたの介護の仕事の経験年数を教えてください。

(            ) 年 (            ) か月

4. あなたはどのような資格を持っていますか？あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

- |              |                      |
|--------------|----------------------|
| 1. 介護福祉士     | 6. 社会福祉主事            |
| 2. ホームヘルパー1級 | 7. 保育士               |
| 3. ホームヘルパー2級 | 8. その他(            ) |
| 4. 社会福祉士     | 9. なし                |
| 5. 介護支援専門員   |                      |

1 認知症ではない利用者(要介護1・2程度)と家族に対するあなたの考えをお聞きます。

利用者への介護や家族への対応に関する次の各項目について、あなたの経験や考えに最も近い選択肢を1つ選んで○をつけてください。

項目	全く そう 思わ ない	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	と と も そ う 思 う
1 介護サービスの主な目的は、家族の休養にある	1	2	3	4	5
2 家族の愚痴を聞くことで、家族の介護負担感を大きく軽減できる	1	2	3	4	5
3 利用者は、言葉によって意思の疎通が可能であることが多い	1	2	3	4	5
4 身体的な機能訓練は要介護度の維持向上に役立つ	1	2	3	4	5
5 家庭での生活を継続するために、介護職員が家族に協力する役割は大きい	1	2	3	4	5
6 介護サービスの内容に対する本人の意向がわからないことが多い	1	2	3	4	5
7 介護職員が家族の状況を把握しておく必要性が高い	1	2	3	4	5
8 妄想などの精神症状に対応する場面が多い	1	2	3	4	5
9 利用者は自分の考えを言葉によって表現することは難しい	1	2	3	4	5
10 家族に在宅介護の方法を教えることで利用者の生活の質を向上させることに役立つ	1	2	3	4	5
11 物忘れによって生活上の支障を来すことが多い	1	2	3	4	5
12 利用者の背景について、もっと家族と情報をお互いに交換すべきである	1	2	3	4	5
13 利用者の生活上の自立を促進することが難しい	1	2	3	4	5
14 事業所での利用者の様子を家族に伝えることが、居宅での介護に役立つ	1	2	3	4	5
15 家族の精神的な悩みに対してアドバイスすることによって、家族の介護負担の軽減に大きくつながる	1	2	3	4	5
16 利用者に対する対応がわからないことが多い	1	2	3	4	5
17 家族は、利用者の家庭での介護を非常に負担に感じている	1	2	3	4	5
18 利用者の表情や仕草から感情や考えを読み取りにくい	1	2	3	4	5
19 利用者の見当識が混乱したときに、正しい情報を教えると混乱が治まる	1	2	3	4	5
20 家族と本人のサービスへの意向が大きく違う	1	2	3	4	5
21 徘徊などの行動障害に対する対応が必要な場面が多い	1	2	3	4	5
22 利用者は、他の利用者との社会的関係をつくるのが難しい場合が多い	1	2	3	4	5
23 利用者の行動が理解できないことが多い	1	2	3	4	5
24 家族に事業所での利用者の状態について理解してもらうことが難しい	1	2	3	4	5
25 利用者とは接するときに怒りや悲しみを感ずる機会が多い	1	2	3	4	5

2 中等度以上の認知症(要介護2・3、認知症自立度Ⅲ程度)の利用者とその家族に対するあなたの考えをお聞きします。

利用者への介護や家族への対応に関する次の各項目について、あなたの経験や考えに最も近い選択肢を1つ選んで○をつけてください。

項目	全くそう 思わない	どちらか と 思わない い え ば	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	と と も そ う 思 う
1 介護サービスの主な目的は、家族の休養にある	1	2	3	4	5
2 家族の愚痴を聞くことで、家族の介護負担感を大きく軽減できる	1	2	3	4	5
3 利用者は、言葉によって意思の疎通が可能であることが多い	1	2	3	4	5
4 身体的な機能訓練は要介護度の維持向上に役立つ	1	2	3	4	5
5 家庭での生活を継続するために、介護職員が家族に協力する役割は大きい	1	2	3	4	5
6 介護サービスの内容に対する本人の意向がわからないことが多い	1	2	3	4	5
7 介護職員が家族の状況を把握しておく必要性が高い	1	2	3	4	5
8 妄想などの精神症状に対応する場面が多い	1	2	3	4	5
9 利用者は自分の考えを言葉によって表現することは難しい	1	2	3	4	5
10 家族に在宅介護の方法を教えることで利用者の生活の質を向上させることに役立つ	1	2	3	4	5
11 物忘れによって生活上の支障を来すことが多い	1	2	3	4	5
12 利用者の背景について、もっと家族と情報をお互いに交換すべきである	1	2	3	4	5
13 利用者の生活上の自立を促進することが難しい	1	2	3	4	5
14 事業所での利用者の様子を家族に伝えることが、居宅での介護に役立つ	1	2	3	4	5
15 家族の精神的な悩みに対してアドバイスすることによって、家族の介護負担の軽減に大きくつながる	1	2	3	4	5
16 利用者に対する対応がわからないことが多い	1	2	3	4	5
17 家族は、利用者の家庭での介護を非常に負担に感じている	1	2	3	4	5
18 利用者の表情や仕草から感情や考えを読み取りにくい	1	2	3	4	5
19 利用者の見当識が混乱したときに、正しい情報を教えると混乱が治まる	1	2	3	4	5
20 家族と本人のサービスへの意向が大きく違う	1	2	3	4	5
21 徘徊などの行動障害に対する対応が必要な場面が多い	1	2	3	4	5
22 利用者は、他の利用者との社会的関係をつくるのが難しい場合が多い	1	2	3	4	5
23 利用者の行動が理解できないことが多い	1	2	3	4	5
24 家族に事業所での利用者の状態について理解してもらうことが難しい	1	2	3	4	5
25 利用者とは接するときに怒りや悲しみを感ずる機会が多い	1	2	3	4	5

3 軽度の認知症(要支援または要介護1、認知症自立度Ⅰ、Ⅱ程度)の利用者とその家族に対するあなたの考えをお聞きます。

利用者への介護や家族への対応に関する次の各項目について、あなたの経験や考えに最も近い選択肢を1つ選んで○をつけてください。

項目	全く そう 思わ ない	ど ち ら か と い え ば	ど ち ら か と い え ば	ど ち ら か と い え ば	と と も そ う 思 う
1 介護サービスの主な目的は、家族の休養にある	1	2	3	4	5
2 家族の愚痴を聞くことで、家族の介護負担感を大きく軽減できる	1	2	3	4	5
3 利用者は、言葉によって意思の疎通が可能であることが多い	1	2	3	4	5
4 身体的な機能訓練は要介護度の維持向上に役立つ	1	2	3	4	5
5 家庭での生活を継続するために、介護職員が家族に協力する役割は大きい	1	2	3	4	5
6 介護サービスの内容に対する本人の意向がわからないことが多い	1	2	3	4	5
7 介護職員が家族の状況を把握しておく必要性が高い	1	2	3	4	5
8 妄想などの精神症状に対応する場面が多い	1	2	3	4	5
9 利用者は自分の考えを言葉によって表現することは難しい	1	2	3	4	5
10 家族に在宅介護の方法を教えることで利用者の生活の質を向上させることに役立つ	1	2	3	4	5
11 物忘れによって生活上の支障を来すことが多い	1	2	3	4	5
12 利用者の背景について、もっと家族と情報をお互いに交換すべきである	1	2	3	4	5
13 利用者の生活上の自立を促進することが難しい	1	2	3	4	5
14 事業所での利用者の様子を家族に伝えることが、居宅での介護に役立つ	1	2	3	4	5
15 家族の精神的な悩みに対してアドバイスすることによって、家族の介護負担の軽減に大きくつながる	1	2	3	4	5
16 利用者に対する対応がわからないことが多い	1	2	3	4	5
17 家族は、利用者の家庭での介護を非常に負担に感じている	1	2	3	4	5
18 利用者の表情や仕草から感情や考えを読み取りにくい	1	2	3	4	5
19 利用者の見当識が混乱したときに、正しい情報を教えると混乱が治まる	1	2	3	4	5
20 家族と本人のサービスへの意向が大きく違う	1	2	3	4	5
21 徘徊などの行動障害に対する対応が必要な場面が多い	1	2	3	4	5
22 利用者は、他の利用者との社会的関係をつくるのが難しい場合が多い	1	2	3	4	5
23 利用者の行動が理解できないことが多い	1	2	3	4	5
24 家族に事業所での利用者の状態について理解してもらうことが難しい	1	2	3	4	5
25 利用者と接するときに怒りや悲しみをを感じる機会が多い	1	2	3	4	5

#### 4 あなたの利用者家族との関わりについてお聞きします。

あなたは利用者家族と実際にどのくらい関わりを持っていますか？それぞれの質問について、選択肢のなかから最もよく当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。それぞれの関わりを行う機会がない場合には「0. 機会がない」に○をつけて下さい。

項目	機会あり				する機会がない
	ほとんどしない	あまりしない	ときどきする	とてもよくする	
1 家族の愚痴を積極的に聞く	1	2	3	4	0
2 事業所での利用者の様子を家族に伝える	1	2	3	4	0
3 利用者の家族の状況を把握する	1	2	3	4	0
4 家族と利用者の人間関係を取り持ったり、仲介したりする	1	2	3	4	0
5 介護サービスに対する家族の要望を聞く	1	2	3	4	0
6 介護負担を軽減させるために家族の精神的な悩みについてアドバイスをする	1	2	3	4	0
7 利用者の介護の仕方について家族と相談する	1	2	3	4	0
8 自宅で家族が介護をうまくできるようにアドバイスをする	1	2	3	4	0
9 自宅での利用者の様子について家族に聞く	1	2	3	4	0
10 認知症の知識を家族に教える	1	2	3	4	0
11 家族に介護サービスの種類や使い方について教える	1	2	3	4	0
12 家族関係の悩みについてアドバイスをする	1	2	3	4	0
13 家族のことでケアマネジャーなどの相談の担当者と相談する	1	2	3	4	0
14 利用者の背景について家族と情報を交換する	1	2	3	4	0
15 家族の心身の健康に配慮する	1	2	3	4	0

5 あなたの介護や家族への対応についてお聞きします。対象者は限りませんので全般的なお考えをお聞かせください

あなたは日ごろ、自分の介護や介護家族との接し方について、どのように感じていますか？それぞれの項目について、「いつもそうでない」～「いつもそうだ」の中から、自分に最もよく当てはまる選択肢を1つ選んで○をつけてください。

項目	いつも そうでない	たいてい そうでない	どちらとも いえない	たいてい そうだ	いつも そうだ
1 家族と話していて、あまり会話が途切れない	1	2	3	4	5
2 認知症のことをよく理解できていると思う	1	2	3	4	5
3 家族が怒っているときに、うまくなだめることができる	1	2	3	4	5
4 利用者の生活歴や習慣をよく理解している	1	2	3	4	5
5 家族とのあいだでトラブルが起きても、それを上手に解決できる	1	2	3	4	5
6 介護の方法や内容をどうしたらよいか自分で決められる	1	2	3	4	5
7 気まずいことがあった家族にもうまく接することができる	1	2	3	4	5
8 利用者の表情やしぐさをみて、感情や気持ちを理解できる	1	2	3	4	5
9 家族が話しているところに、気軽に参加できる	1	2	3	4	5
10 家族から非難されたときにも、うまく対応することができる	1	2	3	4	5
11 自分の考えを、家族にうまく伝えられる	1	2	3	4	5
12 家族に対して苦手意識がある	1	2	3	4	5
13 初対面の家族に、自己紹介が上手にできる	1	2	3	4	5
14 利用者とのコミュニケーションがうまくいっている	1	2	3	4	5
15 家族が介護について違った考えをもっている、押しつけない	1	2	3	4	5
16 家族とどのように関わったらいいかわからない	1	2	3	4	5
17 心情を表に表さない利用者にも心理的な配慮をした援助を行う	1	2	3	4	5
18 家族とうまく話すことができる	1	2	3	4	5
19 介護をしていて、体も気持ちも疲れ果てたと感じる	1	2	3	4	5
20 家族にやってもらいたいことを、うまく話すことができる	1	2	3	4	5
21 利用者のペースにあわせて介護できる	1	2	3	4	5
22 初対面の家族でも、すぐに会話が始められる	1	2	3	4	5
23 利用者がどのような生活をしたいのか理解している	1	2	3	4	5
24 家族は、言うことをあまり聞いてくれない	1	2	3	4	5



**6 認知症介護に関する知識や技術についてお聞きします。**

次の項目は、認知症介護の研修でよく取り上げられている内容です。今後の認知症介護研修のあり方を考える上で、それぞれの項目について、現在のあなたの理解度に最も近いと思う選択肢を1つ選んで○をつけてください。

項目	全くわからない	あまりよくわからない	だいたい理解している	よく理解している
1 認知症の原因や進行の過程	1	2	3	4
2 認知症によって生じる認知や記憶の障害	1	2	3	4
3 最近の認知症介護の基本的理念と基本的方法	1	2	3	4
4 認知症によって生じやすい生活上の障害の理解	1	2	3	4
5 帰宅願望の理解（原因やおきやすい状況）と対応	1	2	3	4
6 認知症介護に適した物理的環境	1	2	3	4
7 パーソンセンタードケアの理念と内容	1	2	3	4
8 認知症高齢者の医学的理解	1	2	3	4
9 成年後見制度	1	2	3	4
10 徘徊などの行動障害の理解（原因やおきやすい状況）とその対応	1	2	3	4
11 認知症高齢者の家族が抱えやすい葛藤とストレス	1	2	3	4
12 認知症高齢者の心理的理解	1	2	3	4
13 認知症高齢者とのよいコミュニケーション方法	1	2	3	4
14 認知症高齢者が安心して暮らせる地域社会づくり	1	2	3	4
15 妄想などの精神症状の理解（原因やおきやすい状況）と対応	1	2	3	4

質問項目は以上です。ご協力ありがとうございました。

調査票は封筒に入れ、封をして、事業所全体の調査票返送封筒に同封してご返送ください。

軽度の認知症の方に対するケアや家族への支援について、ご意見がありましたら、自由にお書きください。

利用者調査票

◎ 各項目について、数値等を記入するか、あてはまるものに○をつけてください。

性別	男          女          (あてはまる方に○)
年齢	(          ) 歳
利用開始からの経過	(          ) 年 (          ) 月ぐらい
利用頻度 (通所介護の場合)	週 (          ) 回
加算の状況 (あてはまるものに○)	1. 送迎                                  2. 入浴                                  3. 特別入浴 4. 機能訓練 (個別計画の作成対象者)
要介護度	要支援          要介護1          要介護2          要介護3          要介護4・5
心身の状態 (あてはまるものに○)	[認知症高齢者自立度]                                  I          II          III          IV          M [障害老人自立度]                                  自立          J          A          B          C
認知症のタイプ	1. アルツハイマー型の認知症          2. 脳血管性の認知症 3. その他 (                                  ) 4. 不明・特定できず
麻痺のある箇所	1. 左上肢          2. 右上肢          3. 左下肢          4. 右下肢
日常支障をきたす筋力低下	1. 左上肢          2. 右上肢          3. 左下肢          4. 右下肢
視力の低下	1. かなり見えにくい          2. やや見えにくい          3. 見える
聴力の低下	1. かなり聞こえにくい          2. やや聞こえにくい          3. 聞こえる
家の外での歩行・移動	1. 自立歩行          2. 杖歩行          3. 歩行器          4. 車いす
室内での歩行	1. 自立歩行          2. 伝い歩き          3. 杖歩行          4. 歩行器          5. 車いす
介助が必要な生活行為(いくつでも)	1. 摂食                                  2. 排泄                                  3. 入浴                                  4. 洗身
家事 (現在の状態)	1. 自分でしている          2. 少ししている          3. ほとんど・全くしていない
家事 (持っている能力)	1. 自分でできる          2. 少しできる          3. ほとんど・全くできない
社会的な手続や金銭管理 (状態)	1. 自分でしている          2. 少ししている          3. ほとんど・全くしていない
社会的な手続や金銭管理 (能力)	1. 自分でできる          2. 少しできる          3. ほとんど・全くできない
更衣や整容(能力)	1. 自分でできる          2. 少しできる          3. ほとんど・全くできない
電話をかける(能力)	1. 自分でできる          2. 少しできる          3. ほとんど・全くできない
被害妄想	1. よくある                                  2. ときどきある                                  3. ない
暴言	1. よくある                                  2. ときどきある                                  3. ない
暴力行為	1. よくある                                  2. ときどきある                                  3. ない
感情不安定	1. よくある                                  2. ときどきある                                  3. ない
大声・奇声を上げる	1. よくある                                  2. ときどきある                                  3. ない
歩き回る	1. よくある                                  2. ときどきある                                  3. ない
家に帰りたがる	1. よくある                                  2. ときどきある                                  3. ない
同じ話を繰り返す	1. よくある                                  2. ときどきある                                  3. ない
作り話をする	1. よくある                                  2. ときどきある                                  3. ない
異食をする	1. よくある                                  2. ときどきある                                  3. ない
排泄物をさわる	1. よくある                                  2. ときどきある                                  3. ない
昼夜が逆転している	1. よくある                                  2. ときどきある                                  3. ない
他人のものを収集する	1. よくある                                  2. ときどきある                                  3. ない
ものを壊す	1. よくある                                  2. ときどきある                                  3. ない
職員の顔と名前を忘れる	1. よくある                                  2. ときどきある                                  3. ない
家族の顔を忘れる	1. よくある                                  2. ときどきある                                  3. ない
トイレなどの場所を忘れる	1. よくある                                  2. ときどきある                                  3. ない

